

出題分析			
試験時間	120 分	配点	200 点
		大問数	3 題
分量 (昨年比較)	[減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化] 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>例年通りの出題形式で、大問Ⅰ・Ⅱが各 15 問、大問Ⅲが 30 問の 3 題構成であった。大問Ⅰがドイツ語・フランス語との選択問題である点にも変更はなかった。英文の長さは大問Ⅰが 2 ページ弱、大問Ⅱが 2 ページ、大問Ⅲが 3 ページで、全体の読解量も例年並みである。各大問の設問構成も昨年度から大きく変わらず、それぞれ約 3 分の 2 が英文中の空所補充問題、残りが内容(不)一致文選択問題である。内容(不)一致問題は、参照すべき段落が問題文に提示されているため解答根拠が探しやすい。空所補充問題についても語彙レベルが昨年度と比較して低下しており、全体的に解きやすくなっている。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解問題 「人はなぜ陰謀論を信じるのか」	3 択の空所補充問題が 10 問、4 択の内容(不)一致文選択問題が 5 問。空所補充問題の選択肢に難易度の高い単語は見られず、比較的解答しやすい。内容一致問題も本文中に根拠が複数あり、選びやすい問題が多かった。	やや易
II	長文読解問題 「交渉の失敗を避けるには」	3 択の空所補充問題が 10 問、4 択の空所補充問題が 1 問、4 択の内容一致文選択問題が 4 問。全体的な語彙レベルは標準的で、空所補充問題にも難易度の高い単語は見られなかったが、文法や文脈を踏まえなければ解けない問題も散見された。	標準
III	長文読解問題 「スポーツウォッシングという問題」	3 択の空所補充問題が 20 問、4 択の内容(不)一致文選択問題が 10 問。空所補充問題の [61][63][72]には難易度の高い単語が含まれていたが、文章全体の語彙レベルは標準的である。内容(不)一致文選択問題の中には、単に本文の内容を言い換えた選択肢を探すだけでは対応できない問題も見られたが、全体的に紛らわしい選択肢が少なく、消去法を駆使すれば解答できる問題がほとんどであった。	標準

合格のための学習法

慶應義塾大学総合政策学部では 1000 語を超える長文が出題されることが多いため、文章を自力で読み通す経験を積み、長文読解への抵抗感をなくしておこう。文章を読み通し、時間内に問題を解ききるためには、パラグラフごとの要旨を押さえることが重要だ。また、語句補充問題の対策として、単語の学習の際、意味だけでなく語法まで確認する癖をつけておこう。単語やイディオムを例文とともに覚えれば、実践的な知識を身につけることができる。加えて、総合政策学部ではメディアやテクノロジーといった時事的、学際的なテーマからの出題が多い。様々なジャンルの英文に触れ、背景知識を知ることが有効な対策となるだろう。